



さやいんげん 新品種「サマーキセラ」の 品種特性と栽培のポイント

雪印種苗㈱ 千葉研究農場

近江 公

1 はじめに

さやいんげんは極端な寒暑にはともに弱い作物ですが、温度管理さえ注意すれば比較的簡単に栽培ができ、播種から収穫まで短期間で済みます。小規模での扱い品目としては手ごろ感もあり、また、市場においても比較的価格が高値で安定しており、単位面積当たりの収益性では極めて魅力的な作物です。しかし、収穫から出荷までが非常に手間と労力を要し、生産者にとっては収益性が高くても生産規模の拡大が難しく、また、各産地においても高齢化が進み、作付面積、生産量とも漸減傾向にあります。

2 産地および市場動向

さやいんげんの主要産地は表1のとおりとなっていますが、産地よっての特色はかなりのはっきりしており、大都市への出荷割合の高い産地と、地場消費割合の高い産地に分かれます。また、大都市へ出荷している産地においても、一部の産地を除いて京浜と阪神・中京とに出荷先が分かれており、京浜市場ではいわゆる「どじょういんげん」と称される莢に凹凸がある平莢品種が好まれ、千葉、茨城、福島産を中心に、つるあり品種が多く使われています。一方、阪神および中京市場においては、莢の表面が滑らかな丸莢嗜好が強く、冬場の沖縄、熊本、鹿児島産や夏場の北海道、長野産を中心に矮性品種が多く使われています。

表2に東京および大阪市場の月別推移をまとめましたが、冬期間(12~4月)は両市場とも沖縄、鹿児島産を中心に入荷数量も少ないため、単価が高く、月別推移もほぼ同じような傾向を示してい

表1 さやいんげんの作付および生産、出荷状況

(平成6年)

	作付面積 (ha)	収穫量 (t)	出荷量 (t)	出荷率 (%)	主要出荷先 (大都市)
全 国	10,200	75,100	45,900	61.1	
千 葉	752	8,550	6,310	73.8	京浜
福 島	984	7,840	5,270	67.2	〃
鹿児島	562	5,200	4,580	88.1	〃、阪神、中京
茨 城	514	4,130	2,550	61.7	〃
沖 縄	350	3,640	3,010	82.7	〃、阪神、中京
北海道	239	2,150	1,710	79.5	阪神、中京
長 野	420	2,100	1,120	53.3	〃、〃
群 馬	352	2,070	1,230	59.4	京浜
高 知	114	1,920	1,710	89.1	阪神、中京
福 岡	206	1,870	1,010	54.0	
熊 本	199	1,800	1,420	78.9	阪神、中京
宮 城	403	1,620	445	27.5	
山 形	236	1,550	703	45.4	京浜
新 潟	224	1,460	576	39.5	
青 森	192	1,300	633	48.7	京浜
長 崎	272	1,260	1,030	81.7	〃
和歌山	132	1,090	825	75.7	阪神

(資料：農林水産省統計による)

ます。5月以降の東京市場は前述のとおり、千葉、茨城、福島産が秋までほぼ占有し、入荷量が最も多い7月が底値となっています。一方、大阪市場においては、5月以降も引き続き九州、四国産の入荷が続き、露地ものの最も多い6月が底値となり、北海道や長野などの冷涼地もの入荷が中心となる8~9月は単価が上がっています。

3 耐暑性品種への強い期待と要望

さやいんげんの生育適温は20~25℃前後で、30℃

表2 東京および大阪市場におけるさやいんげんの入荷量および価格の月別推移

	東京 (H 4～7)		大阪 (S 63～H 4*)	
	入荷量 (t)	平均単価 (円/kg)	入荷量 (t)	平均単価 (円/kg)
年計	7,800	739	2,699	860
1月	267	1,213	112	1,266
2月	243	1,286	116	1,367
3月	299	1,249	138	1,396
4月	371	1,126	188	1,075
5月	546	885	254	827
6月	894	690	388	558
7月	1,224	556	328	608
8月	1,173	588	256	864
9月	1,074	606	250	887
10月	874	635	273	886
11月	502	763	227	805
12月	335	1,037	168	1,065

資料：東京青果物流通年報（H 4～7年の平均）、大阪青果物流通年報（S 63～H 4年の平均）、ただしH 3年は台風年で除外

以上の高温に対しては比較的弱い作物です。特に開花期以降の高温は、受精障害による奇形莢（いわゆるぶくれ莢）や曲がり莢の発生が多く、特に西南暖地の夏穫りにおいては、莢の品質が極めて不安定となります。これらの産地においては、ハウスでの加温栽培を加えることによって、10月～翌年6月までの約9か月間の継続出荷が行われていますが、現在、ほとんど出荷実績のない夏場についても、可能であれば栽培したいとの要望が強く、より高温下での生育に優れる耐暑性品種への期待、要望が高まっています。

4 新品種「サマーキセラ」の品種特性

当社では、平成5年よりそれまでのスノークロップシリーズ（ネリナ、さやかざり）に加え、今までにないスリムで長い莢で品質に優れるベストクロップキセラを発表し、主に矮性丸莢品種を使われる産地を中心に、ご好評をいただいております。また、市場サイドではベストクロップに対する評価が年々高まり、他品種と異なる規格につい



写真1 サマーキセラの出荷品

ても十分認知、確立されてきております。

このたび、ベストクロップシリーズとして、新たにキセラよりさらに耐暑性を強化した新品種「サマーキセラ」（試作系統名：SB 2011）を発表いたしましたのでご紹介します。

1) 主要特性（セールスポイント）

- ① キセラより耐暑性に優れ、高温による莢の奇形がほとんどなく、夏期間でも品質の良い莢を収穫できます。
- ② キセラ同様のスリムな莢で、莢揃いが良く、曲がり方が少なく、また、着莢数も多い豊産種です。

2) 早晩性

開花、収穫始期ともにキセラとほぼ同じ中生種で、夏播き露地栽培では50日前後で収穫に達します。

3) 草姿

草丈は露地栽培で55～60cm程度で、キセラよりさらに低く、コンパクトにまとまります。また、キセラ同様葉色濃く、小葉で、開花期には白花が葉の上に飛び出し、開花最盛期には極めて目立ちます。

4) 莢の特性

莢はキセラ同様、くびれないすじなしの丸莢です。極めてスリムな莢で、莢長14～15cmでも太りは6～7mm程度と細く、また、種子の肥大が遅いため、多少穫り遅れても秀品率の低下がほとんどありません。莢色はキセラよりやや濃緑で、曲がりも少なく、莢肌がきれいで、やや光沢があります。

5) 収量性

着莢数はキセラ同様、極めて多く、秀品率も高



写真2
サマーキセラの草姿

く比較的多収となります。特に高温期収穫においては、比較的短期での収穫となり、また歩留まりが良いことから、キセラや他品種より多収傾向が見られます(表3)。ただし、長くなる割に細いため、キセラよりさらに平均、莢重が軽く、長期穫りではキセラよりやや低収となります。

表3 品種比較試験

品 種 名	開 花 始 始	取 穫 始 始	草 丈 (cm)	莢 色 (9~1)	曲 が り (9~1)	莢 長 (cm)	莢 幅 (cm)	上 物 莢 数 (/5株)	上 物 取 量 (kg/a)	1 莢 重 (g)	雪印種苗(株)
											(千葉)
<平成7年3月7日播種：ハウス半促成>											(千葉)
サマーキセラ	5/2	5/14	67.2	7.0	6.7	15.9	0.68	597	186.8	3.44	
キセラ	5/2	5/14	79.0	7.0	6.4	16.0	0.67	583	191.6	3.67	
L(T社)	5/2	5/14	75.7	6.8	6.8	14.0	0.79	537	186.7	3.94	
<平成7年9月9日播種：ハウス抑制>											(千葉)
サマーキセラ	10/16	11/4	55.0	7.0	7.5	13.2	0.57	142	39.3	2.55	
キセラ	10/15	11/2	57.5	6.8	7.0	13.0	0.58	148	46.2	2.77	
L(T社)	10/15	11/2	65.0	6.4	6.9	12.6	0.76	114	53.1	4.26	
<平成8年5月21日播種：ハウス>											(北海道)
サマーキセラ	7/19	7/29		7.1	6.7	13.8	0.54	255	80.9	2.60	
キセラ	7/19	7/29		6.9	5.6	14.0	0.56	131	52.7	3.38	
ネリナ	7/19	7/29		6.7	6.1	12.3	0.60	164	52.9	2.76	

評点基準 莢色：9(濃緑色)~1(淡緑色)、曲がり：9(無)~1(甚大)

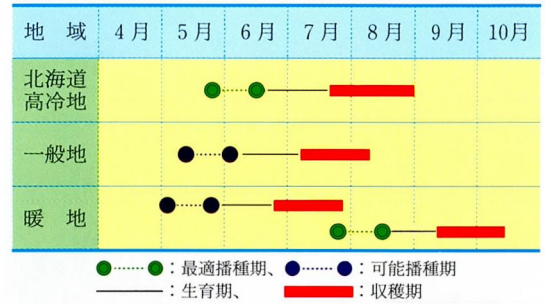


図1 「サマーキセラ」の適応地域および適作型

5 適応地域および作型

本品種の特徴を十分発揮させるためには、各産地において作型(播種)の遵守が重要です(図1)。

- ① 西南暖地(関西以西平坦地)
播種期：7月25日~8月15日
- ② 西南暖地：(関西以西準高冷地)
播種期：7月20日~8月10日
- ③ 北海道・高冷地
播種期：5月下旬~6月中旬

西南暖地においては、9月中旬からの収穫を目標として播種期設定に当たります。これより早い播き付けでは、作物としての限界を越えることとなり、順調な生育が期待できません。また、8月中旬以降の播種(10月中旬以降の収穫)であれば、キセラのほうが収量も確保しやすく、また、品質的にもほとんど問題が出ない時期となります。一方、北海道および高冷地においては、地域によって夏場の温度上昇が異なっており、基本的には短期収穫(1回の播種分で2週間程度の収穫)を前提とした、細かい播種期の設定が必要となります。

6 栽培上の注意点

1) 草勢の確保

草勢がキセラよりさらにコンパクトにまとまるので、やや強めに



写真3 ハウス栽培風景



写真4 露地栽培の開花最盛期

維持し、収量および莢の品質の安定を図ります。特に高温期の露地栽培では、生育期間が短いため、草丈が十分伸びる前から開花が始まるので地力のある圃場を選び、また、灌水などで草勢確保に努める必要があります。

2) 高温期の立ち枯れ対策

キセラより耐暑性に優れているとはいえ、発芽から生育期間を通して、極めて過酷な環境の中で生育していくため、できるだけ暑さを防ぐ必要があります。発芽においては、必ず種子に殺菌剤(オーソサイドまたはチウラム剤など)を粉衣し、発芽不良を防ぎます。また、出芽後は立ち枯れを防ぐため過度な灌水は控え、過湿にしないよう注意します。

3) 適期収穫の徹底

本品種については、キセラ同様、莢が細く1莢



写真5 収穫期を迎えた草姿

重が軽いので、莢長10~12cm程度での収穫には向いていません。莢長13~15cm程度を収穫の目安としますが、先に述べたとおり、種子の肥大が遅いこと、また、莢長15cm前後で伸長もほぼ止まることから収穫ピーク以降については、やや収穫が遅れ気味になりやすく、莢の品質については問題がなくても、過度の穫り遅れは結果的に草勢を弱めることになるので、できるだけ適期に収穫するよう注意が必要です。

7 おわりに

前述のとおり、さやいんげんについては比較的価格が良く、収益性の高い品目であるにもかかわらず、生産量は年々減少しているのが実態です。特に各産地とも生産者の高齢化が極めて深刻であり、5年後、10年後の産地維持や拡大に対して悲観的な産地が多く、今一度、産地形成のための改善、工夫が求められています。

今回ご紹介した「サマーキセラ」については、現行の作型の中での作付面積の規模拡大が、生産者サイドにおいて極めて困難な状況の中で、作期の分散を図り、トータル的により収穫期間を拡大できる品種として発表しました。特に丸莢主体となる阪神、中京市場への夏場出荷用品種としてご利用いただき、さらに、安定、拡大生産につなげていただければ幸いです。